



▲雪のような特殊な形をしたキャンドルなど1000個以上のキャンドルに火が灯された。

## furano honobono yukiakari ふらの灰灰ゆきあかり実行委員会

### ほのぼの 灰灰とした時間と共に 富良野で灯した光を世界へ



2月10日、11日、駅前のリバーモールに設置された1000個を超えるキャンドルに火が灯され、オレンジ色のあたたかな光が静閑とした夜のまちなかをやさしく包み込みました。

隣接する「ふらっと」内では、ゴスペルコンサートやディスコライブ「フRANDOMジャラ」が行われたほか、協賛する周辺の飲食店がラーメンやホットドックなどを販売し、参加者らは冷えた体を暖めていました。

「ふらの灰灰ゆきあかり」は、5年前に、「駅周辺の魅力アップ」と「電気を消してキャンドルに火を灯し環境について考えるきっかけ」として、商店街の若手を中心とした有志が実行委員会（吉田幸生会長）をつくり、毎年この時期に行っています。それとあわせ、環境の大切さを伝える活動として、幼稚園や福祉施設などでキャンドルや「牛乳パック灯ろう」の製作体験を行っており、今回はひまわり幼稚園の園児とことぶき大学の学生が作った「牛乳パック灯ろう」も会場で披露されていました。

吉田会長は、「みんなで同じ時間を過ごそう」「富良野でつながろう」というのがテーマ。参加型のイベントであれば、外に出るきっかけになりますよね。また、インターネット上のソーシャルネットワークサービスなどを活用すれば世界ともつながることが出来ます。今回、国外を含め150人ほどが別の場所と同じ時間に火を灯しました。富良野から発信した光が世界の隅々に届いてくれたら素敵ですよ」と取り組みにかける思いを語ってくれました。今後については、「環境教育の活動として、学校とも連携していきたいと思っています」と話してくれました。

